

妊娠中に行う検査について



妊娠初期の検査

①血算	血液中の赤血球・血色素(ヘモグロビン)・白血球・血小板の数や濃度を調べます。貧血、血小板減少症、白血病などの病気が分かります。
②血液型(ABO・Rh)	分娩時の大量出血や帝王切開の際に備えて行います。血液型不適合妊娠の発見にも管理にも役立ちます。以前に検査をして証明書があれば不要です。
③不規則抗体	母体にABO型やRh型以外の特殊な不規則抗体があると陽性となります。陽性時には胎児に貧血や黄疸がおこることが知られていません。
④梅毒	母体が梅毒の場合には、妊娠中に胎児に感染して、出生後に児が先天梅毒になります。妊婦の場合には、まれに疑陽性の結果が出ることがあります。
⑤B型肝炎ウイルス(HBs抗原)	ウイルスを保有しているかを調べます。母体が陽性の場合には、分娩時に胎児に感染することがあります。
⑥C型肝炎ウイルス(HCV抗体)	ウイルスを保有しているかを調べます。母体が陽性の場合には、分娩時に胎児に感染することがあります。
⑦AIDS(HIV抗体)	ウイルスを保有しているかを調べます。母体が感染していると、高率に胎児に感染します。
⑧血糖	最近、食生活の欧米化などで糖尿病が増加しています。最近の報告によると、糖尿病だと先天異常や出生後死亡を起こす可能性が高くなると言われています。
⑨風疹	風疹への免疫があるか調べます。陽性の場合には今後かかることはありません。妊娠16週以前に風疹にかかると、胎児に先天異常がおこることがあります。
⑩成人T細胞白血病ウイルス抗体(ATLA:HTLV-1)	ウイルスを調べます。陽性のお母さんが子供に母乳を与えると、3人に1人の割合で感染します。母乳も人口哺乳も感染の割合は変わりません。
⑪子宮頸部細胞診	いわゆる子宮頸がんの検査です。子宮口の部分の細胞を綿棒で採取して、子宮頸がんの早期発見を行います。
⑫クラミジア・淋菌	性感染症の1つです。自覚症状はほとんどありません。感染したままですと、流産や赤ちゃんの結膜炎・肺炎などの原因になります。陽性の場合には、分娩までに治療をします。
⑬TSH・ST4	甲状腺ホルモンの検査です。妊娠の維持、赤ちゃんの成長に重要なホルモンですので、初期にスクリーニングを行います。